

試行錯誤の中での粒子線治療看護の確立

——看護実践と看護教育——

Establishment of nursing for particle therapy after try and error

大塚 厚子

Atsuko OTSUKA

兵庫県立粒子線医療センター附属神戸陽子線センター医療部看護科 看護科長兼地域医療連携課長

Hyogo Ion Beam Medical Center Kobe Proton Center

この度は、名誉ある学会に参加させていただき、また、発表の機会を与えていただきましたことに心より感謝申し上げます。シンポジウムでは「試行錯誤の中での粒子線治療看護の確立～看護実践と看護教育」をテーマに発表させていただきました。放射線看護・原子力災害看護とは、少し内容が異なったかもしれません。兵庫県立粒子線医療センターは、陽子線と重粒子線の2種類の線種を用いる粒子線治療に特化した、がん治療専門病院（50床）で、2003年に一般診療を開始し、2017年9月までの約14年間に8,000名以上の治療を行ってきました。開設当初は、粒子線治療とは？の時代で、有害事象（特に晩期）についても、まだまだ未知の部分が多く、私たちは、この14年間の看護経験の中で積み重ねた専門的な知識やスキルを活かし、試行錯誤しながら看護実践を展開し粒子線治療看護を確立してきました。私は、開設当初から勤務し、3年前からは看護師長として勤務しています。現在は日本各地に粒子線治療施設が開設されてきています。粒子線治療看護のパイオニアとして看護の情報を発信することで、少しでもお役に立てればという思いで発表させていただきました。

この14年間の経過の中で、治療効果を最大・有害事象を最小とする治療計画は日進月歩であり、治療方向の工夫や治療に伴う前処置（金属マーカー留置、歯科処置等）も、変化してきています。H29年12月1日には、神戸のポートアイランドの地に「県立粒子線医療センター附属神戸陽子線センター」が開設しました。県立こども病院に隣接し小児に重点を置いた陽子線治療施設は全国でも初めてであり、内外から大きな期待と関心が寄せられています。私たちは、これからも変化・進歩するその治療方法（計画）を理解し、粒子線治療に特化したがん専門病院の看護師として、今後も看護実践力を高めていきたいと思っております。